

21世紀は「例外」か「常態」か

～「ショック・ドクトリン（惨事便乗型資本主義）」
をいかに回避するか～

法政大学法学部教授（現代日本経済論）

経済学者

講師 **水野和夫氏**

2023年

6/24 土 開演**15:00**
(開場**14:30**)

会場：東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館フオワードホール
※車でのご来場はご遠慮ください。

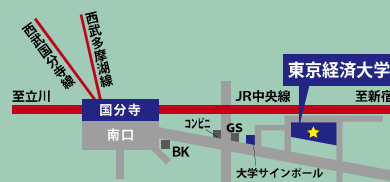
参加費：無料 ※6歳以下のお子様は入場することができません。

申込方法：事前申込制。裏面の申込用紙にご記入の上、FAXまたは郵送でお送りください。
本学公式サイトからもお申込みいただけます。(電話では受け付けておりません)
※FAXまたは郵送でお申込みいただいた場合は、入場券を郵送いたします。
※本学公式サイトからお申込みいただいた場合は、受付返信メールをもって入場券と
させていただきます。

申込締切：2023年6月19日(月)
※定員に達し次第、申込受付は終了となります。

定員：先着250名

主催：東京経済大学・大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会



国分寺駅南口から徒歩12分
※武蔵小金井駅より京王バスもご利用いただけます。



みずの かずお
水野 和夫

法政大学法学部教授(現代日本経済論)
経済学者

早稲田大学政治経済学部卒業。埼玉大学大学院経済科学研究科博士課程修了。

三菱UFJモルガン・スタンレー証券チーフエコノミスト等を経て、内閣府大臣官房審議官(経済財政分析担当)、内閣官房内閣審議官(国家戦略室担当)などを歴任。

著書に「次なる100年—歴史の危機から学ぶこと(東洋経済新報社)」「終わりなき危機 君はグローバル化の真実を見たか(日本経済新聞出版社)」「資本主義の終焉と歴史の危機(集英社新書)」など。

受講者へ
メッセージ

資本主義や近代システムの「例外」が起きている。その象徴がゼロ金利だ。資本とは利息のつくお金であるのに、利息がつかない。一方、21世紀に入って資本の利潤率は8%と上昇傾向にある。本来、付加価値からしか生まれない利子と利潤は同じ方向に動くはずだがそうはなっておらず、現在財(消費財)と将来財(投資財)の選択を決める利子の機能が消滅している。

「正常は何物をも証明せず、例外がいつさいを証明する」(シュミット)ように、「例外」が意味していることを探ると、この400年の近代システム、あるいは800年の資本主義が人類史上において「例外」いわば過渡期で、古典派のいう「定常状態」が「常態」化へ進行しているといえよう。

注意事項 今後の新型コロナウイルス感染状況次第で、大学が必要と判断した場合、ご参加の皆さまにマスクの着用を求めることがあります。ご理解ご協力をお願いいたします。

下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵便でお送りください。
本学公式サイトからもお申込みいただけます。(※電話では受け付けておりません)

お申込先

東京経済大学 広報課

〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-34

FAX 042-328-7768

WEB <https://www.tku.ac.jp/>



申込締切: 2023年6月19日(月) 必着

学術講演会『21世紀は「例外」か「常態」か』 申込用紙

住所 〒 都道 市区
府県 町村

フリガナ
氏名

電話番号
FAX 番号

参加人数 申込者ご本人を含めて
参加を希望される人数 _____ 名 (うち学生・生徒・児童 _____ 名)

メールアドレス

■該当する区分にチェック✓を入れて下さい

- 大倉記念学芸振興会会員
 学生 / 生徒 / 児童 学校・大学教職員 本学卒業生 その他

学校名

■ご希望の場合はチェック✓を入れて下さい。

大倉記念学芸振興会の今後のイベント案内の送付